

目的 大きさ知覚に関して暖色系の色は膨張し、寒色系は収縮することが知られている。赤・黄・緑・青・紫・白・灰・黒に塗り分けた直方体の見かけの大きさ判断において Gundlach と Macoubery は明度の高いものから順に大小が判断されるとした。Wallis によれば黄・白・赤・黒・青の順で立体の見えの大きさは小さくなり、明るさとの関係で説明している。色の大きさ効果について、順位や明度との関係は報告されているが、色相については明確にされていない。立体の大きさ効果と色の属性との関係を次の2点から検討する。①色相と大きさ効果の関係 ②トーン（明度・彩度）と大きさ効果の関係。

方法 色の見えの判断にバラツキの少ない円錐体を立体刺激とし、表面色を①では日本色研のビビット・トーン24色相及び白から黒までの無彩色9段階を用い、シェッフエの一対比較で見かけの大きさ順位を求め、色相と大きさ効果を検討。②では①で最大の大きさ効果を与えた黄と、最小を示した青を含む橙・緑・青紫・赤紫の6色相をもとに p, lt, b, v, d, ltg, g, dp, dk の9トーンと無彩色9段階を刺激としてトーンと大きさ効果を検討した。

結果 ビビット・トーン24色相環では黄→緑→青にかけては明度変化と大きさ評価の変化は一致しているが、青→紫→赤→黄では明度の変化以上に色相の要素が強く働いていることが分かった。同一明度の無彩色と有彩色の比較では有彩色の大きさ効果が認められた。トーンと大きさ効果の関係は、6色相共にトーンの大きさ評価に幅があり、色相のみで絶対的に大きく感じる色とか小さく感じる色はない。トーンの選び方で相対的に大きく、あるいは小さく感じる色が存在する。